

『今問いかける 世界の平和』

桜中学校 3年B組 伊藤陽毬

「なぜ、世界から争いごとがなくならないのか。」

最近、私はよくこの問いについて考えます。特にテレビやインターネットで、爆撃を受け血だらけになって運ばれる幼い子どもや、街が破壊され嘆き悲しむ人々の映像などを見ると、とても胸が痛み、なぜこうまでして戦争を続けなければいけないのか、と疑問をもつとともに怒りに似た感情が沸き起こります。

今でこそ平和を謳歌する日本ですが、かつてはこの秋田でも空襲により二百五十人を超える人々が犠牲になった過去があります。太平洋戦争終戦前夜に起きた「土崎空襲」です。

私はこの事実を小学生の時初めて知りました。そのときは「こんな田舎にまで空襲があったのか」と驚き、それまで遠い昔に起きたと思っていた戦争が、ぐっと身近に感じられるようになりました。

中学校の授業で歴史についてより詳しく学ぶと、なぜ人間は戦争をするのか、世界が平和であるためにどうすればよいのか、と考えるようになりました。かつて起こった戦争も、今まさに続く紛争も、そうしなければならない事情があった、と当事者たちは言います。自国を守るため、世界の平和を守るため、戦わざるを得なかった、と。

しかし、本当にそうでしょうか。私たち子どもがけんかをすると、大人は必ずこう言います。「暴力はダメ。話し合いで解決しなさい」と。大人だって同じではないでしょうか。

私は、争いを続ける大人たちに一刻も早く気づいてほしいです。誰一人悲しい思いをしないために、罪のない一般市民の命や子どもたちの未来が奪われないために、考えや立場の異なる相手の意見にも耳を傾けることの大切さを。私はまだ中学生で未熟かもしれませんが、平和を保つためにどうしたらよいか、これからも考え続けていきたいです。そして普段から相手を思いやり、互いを尊重し合える雰囲気をつくり、皆が笑顔で過ごせるように意識して学校生活を送っていきたいです。